

地域子ども・子育て活動支援助成事業 実施報告書（別紙2）

団体名	学童保育 たんぽぽ
-----	-----------

取組の名称	繋げよう地域と人とのぬくもり
実施場所	学童保育たんぽぽ 及び その周辺地域 公園など
対象地域	高津区子母口・蟹ヶ谷を中心とする地域
対象地域の特色・課題	昔ながらの住宅街で、長年地域に住まう家庭、3世帯以上で同居する家庭がある一方、新たな住宅が建てられ、移り住んできた核家族も多い。近隣にはせせらぎ遊歩道があり、地域の高齢者や家族連れが散歩したり遊んだりする姿が見られる。そこに関わりが生まれてつながりができていけば、自然な関わりの中でお互いの見守りや助け合いができて、よりよい地域となると考える。
取組の趣旨・目的	学童保育たんぽぽはこれまで「家庭・学校・地域」と連携し、子ども達の放課後の過ごし方が安全で安心できるものになるよう取り組んできた。定員30名程の小さなコミュニティーであるが、保護者だけでなく、ベテラン支援員、若手支援員、保育歴の長いサポートスタッフが日々子ども達の保育に当たり、社会性、人間関係を築く力、自分たちで問題を解決しようとする力など、様々な力を育めるようにしてきた。また、民生児童委員、ボランティアで保育に協力して下さる地域の高齢者の方、卒業したOB・OG生とその家族など幅広い層の人が子ども達の成長を見守り、活動を支えてくれている。この学童保育たんぽぽを拠点に、地域の子ども達が関われる場や保護者同士が関わりをもてる場を提供することで、つながりのある地域作りの一助となると考える。

<p>実施内容・実施スケジュール</p>	<p>■放課後児童クラブ 前年度と同等の活動を実施。</p> <p>■地域交流事業</p> <p>(1) フードドライブ 実施日時：2022/4/9、4/23、5/14、5/28、6/11、6/25、7/9、7/23、8/27、9/10、9/24、10/8、10/22、11/12、11/26、12/10、12/24、2023/1/14、1/28、2/11、2/25、3/11、3/25(毎月第2、4土曜日 8/13は台風の為中止) 10:00～16:00 4月から3月まで年間を通して、フードドライブに取り組む。回収BOXはたんぼぼ前に毎回設置。チラシ、ホームページ、SNSを利用して定期的に地域へ呼びかけを行い、回収した食品(うどん、そば、パスタなど乾麺、サラダ油、缶詰、飴、レトルト食品、茶葉、粉末スポーツ飲料など)を川崎市社会福祉協議会などに寄付した。</p> <p>(2) たんぼぼ食堂 実施日時：①2022/5/31(火)、②7/26(火)、③9/27(火)、④10/25(火)、⑤11/29(火)、⑥2023/1/31(火) 18:00～19:00 年間6回(平日の夕方)、たんぼぼにて実施。5月チキンライス、7月カレーピラフ、9月エビピラフ、10月五目釜めし、11月帆立ご飯&エビピラフ、1月キンパ(韓国海苔巻き)。パック詰めをした炊き込みご飯などを配布/販売した。各回約40～50食を配布/販売。子供は無料・大人は¥100/食。周辺小学校、保育園などへチラシを配布し、周知した。食を通し子どもや子をもつ家庭の支援が出来た。</p> <p>(3) 地域清掃 実施日時：2022/4/17(日)、5/15(日)、6/19(日)、7/17(日)、9/18(日)、10/16日、11/20(日) 9:00～10:00 子母口北町会江川清掃活動にたんぼぼとして参加。町会側の参加者は主に高齢の方が多く子ども達との交流もしながら、子ども達も普段自分達が遊んでいるせせらぎへの思いや地域の方の支えを実感できるいい機会となった。</p>
----------------------	---

(4) 7月 かき氷の日

実施日時：2022/7/20(水) 15:00~18:00

たんぽぽにて実施。無料にかき氷を配布。近隣の親子、放課後に遊びに来る小学生、幼稚園・保育園帰りに立ち寄る親子など62名が来室。受付は高学年のたんぽぽ室生が担当したりと、周辺地域の方々とたんぽぽで涼みながら交流を図ることができた。

(5) 9月 子連れ防災講座

実施日時：2022/9/11(日) 10:00~11:30

たんぽぽにて実施。事前に近隣幼稚園、保育園などへチラシにて講座の実施を周知。参加人数12名。NPO ママプラグ(多摩区登戸)に依頼し、子どものいる家庭の災害への備えや避難について教えて頂いた。東日本大震災、近年の台風被害などを機に、防災への関心が高まっている。避難に関する情報は溢れているが、乳幼児や小学生のいる家庭に特化したものは少ない。講師の方が普段使用している防災グッズを紹介頂いたり、災害時の行動や家族との連絡、連携などをワークショップ形式で具体的に考える事が出来た。

(6) 11月 工作の日

実施日：2022/11/6(日) 10:00~15:00

橘公園にて独自に行った、たんぽぽバザーと併せて実施。たんぽぽで毎月行っている工作の時間をバザーに足を運んでくれた地域の子供達と一緒に楽しむ。バルーンアート、スライムグッズを作成した。未就学児の親子連れも多く、たんぽぽ支援員や室生で作り方を教えてあげると、楽しそうに取り組んでいた。多くの子が自分で作った作品を嬉しそうに持ち帰っていた。

(7) 11月 就学前サロン

実施日：2022/11/12(土) 10:00~15:00

パークマルシェさんからお声がけ頂き、橘公園にて実施。就学を控える保護者の不安を少しでも解消するため、学童保育た

	<p>んぽぽを利用する保護者が相談役となり、情報を提供したり交流を図って関係作りを行ったりした。ランドセル、体操着、防災頭巾などを揃え、小学校で使う学用品を実際に手に取ってもらうコーナーも設けた。多くの子連れ家庭に立ち寄って頂き、入学前の様々な不安・疑問にお答えする事が出来た。</p> <p>(8) 2月 茶道教室 実施日：2023/2/22(水) 16:00～17:00 たんぽぽにて実施。たんぽぽ室生、地域の子達10名程が参加。茶道のお免状をお持ちの地域の方にお点前を披露していただき、茶道についてご指南いただいた。初めて茶道に触れる子がほとんどだが、子供達はお茶菓子に興味を持ったり、真剣に話を聞き、お作法を習っていた。なかなか触れる機会のない日本伝統の振る舞いを身近で感じられる良いきっかけとなれた。</p>		
参加者の年代	未就学児や小学生とその保護者～高齢者	定員 (1回あたり)	(5)(8)=10～20名程度、他は定員なし
実施頻度	①放課後児童クラブ(240日) ②フードドライブ活動：月に2回 ③たんぽぽ食堂(たんぽぽごはん)：2ヶ月に1回 ③その他 交流活動：年5回(保育中2回)	活動日数 (年間)	282日
スタッフ体制	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会(たんぽぽを利用する家庭で構成)より5～7名が役員となり、企画・運営を主に担当する。 ・専任支援員2名、常勤支援員3名 ・地域のボランティア 		

<p>連携する団体・ 連携の手法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子母口/新城小学校 <p>毎年、学童児の名簿を提出し、緊急時の引き取り等 連携・確認を行っている。4、5月は、新1年生の下校サポートとして学童支援員が付き添って下校しており学校側も「たんぽぽ」で1グループ組んでくれて、スムーズな引き渡しができている。(学校から保護者にお迎え依頼の連絡をするほどではない場合でも先生が学童保育まで下校に付き添ってくれたケースもある。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子母口北町会 <p>たんぽぽとして地域清掃活動に参加。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フードドライブかわさき、市社会福祉協議会 <p>たんぽぽで回収した食料品や日用品を寄付する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NPO ママプラグ(多摩区登戸) >>防災講座の講師依頼。 ・地域ボランティア(茶道の先生) ・運営委員(民生委員含む)に、地域交流活動への参加/協力を依頼する。 ・近隣保育園・幼稚園へチラシの配布を依頼したり、参加を呼びかけたりする。
<p>取組実施により 見込まれた効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通しての交流活動により、異学年の児童の保護者同士が繋がりをもつことができ、新たな関係を築くことで子ども達を見守る地域の目を増やすことができた。また、高齢者や様々な地域の人達に協力を求め、一緒に活動することで、これからの社会に求められるダイバーシティの一端を担えた。 ・保護者と支援員が協力して運営する自主学童保育の運営を通じ、保育内での活動やイベントを地域へオープンにする事で、安心して地域の子どもの関わられる居場所を作ることができた。 ・たんぽぽや地域の公園、遊歩道での活動なので、地域の子ども達や家庭が参加しやすく、自然と人間関係を広げていくことができた。 ・子供のいる地域家庭に対して、「食」を中心とした支援を進めることにより、物理的・精神的両面から地域家庭の支援に寄与できた。 ・フードドライブ活動ではフードバンクかわさき等を通じて広く地域の福祉施設や食を必要としている方に食品を寄贈でき、たんぽぽがフードドライブの窓口になることによって、地

域にフードバンクの存在をアピールでき、より多くの人に周知することができた。

・たんぼぼ食堂では地元密着型でその時に今食事を必要としている子ども達や家庭へ温かいごはんを提供でき、同時に子育ての相談窓口としての役割も果たすことで、子育て世帯向けに精神的なサポートも実施することができた。

・フードドライブとたんぼぼ食堂、2つの取り組みにより、困難な生活状況にある家庭や子どもへのケアを推進することができた。